

諸説はあれども日本全国三大ダム 日本三大ダム

フリーライター 永浜敬子
(九三八字)

profile

ながはまけいこ フリーライター&コピーライター。京都府出身。新聞社、広告制作会社を経てフリーに。料理、食文化、健康、医療、ビジネス、サブカルチャー関係を中心に雑誌、広報紙、webで執筆。現在、『日経トレンディ』、『Meets Regional』で連載中。著書に県民性をユニークな視点で考察した「なかもんの踏絵」(べんぎん書房)、『ビハ★いなかもん!』(講談社)、『なまり亭』(ワニブックス)などがある。

最近では、ダムを訪問したらもらえるダムカードを集めたり、各地のダムでダムカレーが名物になるなど、ダムがちょっとしたブームになっている。電力を供給したり、洪水や灌漑(かんがい)を未然に防いでくれる水の貯金箱、ダム。日本のダムの数は二七五九(日本ダム協会調べ)。これは世界でもトップクラスの数だ。形状や工法、また、電力供給や灌漑用など、用途もさまざまなので、一概に比較するのは難しいが、知名度や規模、風格などから、黒部ダム(富山県)、奥只見ダム(福島県・新潟県)、御母衣(みぼろ)ダム(岐阜県)が「三大ダム」とされている。

私も見に行ったことがあるが、その圧倒的な大きさに、言葉が飲むほどだった。ものすごく大きいというだけで、人を感動させる何かがあると実感させてくれたのも黒部ダムだった。毎年六月から一〇月中旬までの期間に、毎秒一〇立方メートル以上の水量を噴き出す大迫力の観光放水が行われるのも見もの。

ちなみにダムの高さのベスト三は、一位黒部ダム一八六メートル、二位高瀬ダム一七六メートル(長野県)、三位徳山ダム一六一メートル(岐阜県)の順。奥只見ダムは、総貯水容量六億一〇〇万立方メートル。完成当時東洋一の人造湖ともいわれたそのスケールは圧倒的で、雄大な山並みに囲まれた広いダム湖を一周する観光船も周航している。二〇〇〇年公開の映画「ホワイトアウト」のモデルにもなった雄大なダムである。御母衣ダムは、堤高一三一メートルの大規模なロックフィルダム。「二〇世紀のピラミッド」とも形容されたその姿は、一見の価値がある見事さだ。ダム建設でいくつもの集落が水没したが、その地にあった二本の桜の老木を大移植。現在、樹齢四五〇年余の天然記念物、荘川(しょうかわ)桜としてダムのかたわらで壮大に咲き誇っている。ちなみに日本最古のダムとされるのは灌漑のために作られた大阪の狭山池。その歴史はるか飛鳥時代にさかのぼり、『古事記』や『日本書紀』にも記述があるそう。古来、われわれの生活にはなくてはならないダム。この秋は、紅葉狩りと併わせて大きくて美しいその姿をぜひ近くで感じてほしい。

ショート・コラム 1

サンマが出ると 按摩が引っ込む

(一九九字)

良質のタンパク質、鉄分、カルシウムなど、栄養素が豊富なサンマ。中性脂肪や悪玉コレステロールを減らすといわれるEPA、記憶や学習能力に関与するというDHAの含有量も多い。そこで、サンマを多く食べると体の不調が軽減され、マッサージ治療を受ける人が減るといわれるが、ことわざの由来の一つ。江戸時代には馬力が出るという意味で「三馬」と書くこともあったそう。まだ暑い日が続く九月。サンマを食べて元気に過ごそう。

ショート・コラム 2

虫の「声」に 耳を傾けて

(二〇四字)

夕暮れに虫の音を聞くと、秋の到来を実感するものだ。唱歌『虫のこえ』には、五匹の虫たちが奏でる音色が「声」として描かれている。ところがそれを聴き取れるのは、日本語あるいはポリネシア語を母国語としている人だけという。その二つの言語で育つと、虫の音を言語脳である左脳で認識する。対して、ほかの言語圏の人は音楽など感性をつかさどる右脳で受け止めるため、雑音にしか感じられないのだとか。今宵、虫の声に耳を傾けてみては？